

平成20年12月

中国と付き合うための中国事情

日本食品包装研究協会会長 石谷孝佑

E-mail : gqzmz6ez9k@fuga.ocn.ne.jp

《この資料の内容》

1. 中国社会の激変、最近の10大ニュースと日中関係の変化
2. 経済発展は著しいが、リスクも大きい
3. 環境破壊・環境汚染が酷い。新しい政策の中心に
4. 中国の食の特徴とその激変
5. 溢れる偽物と知的所有権の考え方
6. 中国のルールを知って対応する
7. 大きく違う中国人と日本人の考え方
8. 「中国人度テスト」、あなたはどのくらい中国人？日本人？

《改革開放後の中国社会の激変》

1. 改革開放政策（1978）後10年で沿海部が工業地帯ベルトに
2. 天安門事件（1989）で経済発展が一時停滞
3. 鄧小平氏の「南巡講和」と「社会主義市場経済」導入（1993）により再活性化
4. 欧米・日本による本格的投資で高度成長へ、WTO加盟（2001）以後も高度成長続く
都市の再開発・高層ビル群に変貌、農村の工業団地化、外国企業の投資、高速道路網の整備で車社会に、列車の高速化、携帯電話・インターネット社会に
5. 江沢民政権の「高度成長政策」から、胡錦涛政権（2004）の「持続発展政策」へ
環境問題、食の安全問題、高級官僚の腐敗、農民の暴動、金持ちの飽食・生活習慣病急増
経済開発の中心が、南部（上海・広州）から北部（北京・天津）へ移動か
6. 胡錦涛政権、第17期中央委員会三中全会で方針変更（08年10月、三農振興・農民の所得倍増、輸出から内需拡大へ、ドル拝金主義の見直し）

《各世代の考え方の特徴と重要なこと(2008)》

《日本以上に世代間のギャップが大きい「代溝」》

世代・年代（大学）	今の年令	特 徴	重要なこと
革命世代(1955-65)	63-73 歳	革命の誇りと忠誠心	社会貢献
文革世代(1966-77)	51-62 歳	まともな教育を受けられ なかった世代	社会的地位
改革開放世代(1978-89)	39-50 歳	将来に夢を抱いた時代 留学組が行政の中枢を担う	経済的豊かさ
高度成長世代(1990-08)	18-38 歳	夢を実現する世代 新興企業の社長は海外留学組	個人の自由

《2006年》中国関係10大ニュース（日本版ニューズウィークが選定）

2006年は胡錦涛政権が「調和ある社会」を目指し、大きく舵を切ろうとした年であった。しかし、経済の高度成長を至上命令とした90年代から方向を変えるのは容易ではない。「貧富の格差解消」や「環境対策」などについて、まだ目に見える成果は上がってはいない。日中関係では、小泉首相の靖国参拝、胡主席の首脳会談拒否などで嫌日・嫌中が双方で増加した。安倍政権の誕生を機に日中関係は回復基調になったが、この日中関係の改善と上海の共産党トップの交代劇は、江沢民前主席と胡錦涛現主席の勢力争いの一端と見る向きもある。

1. 第11期5ヵ年計画（2006～2010）が始動
2. 安倍首相訪中、日中関係修復へ
3. 上海市のトップ・陳良宇氏が汚職で失脚
4. WTOへの移行期間5年を終了
5. 外貨準備高、1兆米ドルを突破
6. 途上国における資源外交が活発化
7. チベット高原の「青蔵鉄道」が開通
8. 重慶・四川で100年ぶりの大旱魃
9. 北朝鮮を巡り、日・中の外交調整が難航
10. 中国の自動車生産台数世界第3位に

《2007年》中国関係10大ニュース（石谷が選定）

1. 段ボール肉饅等、中国食品の安全性に不安
2. 中国株の暴騰と暴落の危惧
3. 「物権法」「反独占法」「労働契約法」「食品安全法」などの法整備が急速に進展
4. 記録的な物価上昇
5. 中国の海外投資が活発に
6. 祭日制度を見直し、08年よりメーデーは短期に、清明節、端午節、中秋節が祭日に
7. 温家宝首相が来日し、戦略的互惠を確認
8. 福田首相が訪中し、日中関係が前進
9. 台風・洪水・旱魃など、自然災害が多発
10. 中国、月探査衛星の打上げに成功

《2008年》中国関係10大ニュース（石谷が選定）

1. 農薬入り冷凍餃子で中毒発生、日本の食の検査体制・自給率の見直し（1月末～3月）
日中双方の主張で並行線、中国で回収餃子による中毒が発生、発生原と認める（7月）
2. 北京オリンピック開催（8月）
3. 四川大地震で死者9万人を超える（5月）
4. アメリカのサブプライムローン破たんて史上最大の株暴落、中国株も大暴落（9-10月）
企業倒産、民工の大量帰郷・暴動が多発（11-12月）
5. 胡錦涛主席来日、パンダ送られる（5月）
6. チベット暴動で国際的な批判（3～4月）
7. 中国南部に50年振りの大雪で交通・エネルギー供給がダウン、物価上昇に拍車（2月）
8. 三中全会で方針変更（三農振興・所得倍増、内需拡大、ドル拜金の見直し）（10月）
9. インフレ加速し10%に近づく、主要食料の値下げでインフレ率最終2%台に（12月）
10. 台湾国民党馬政権の誕生で中台の交流促進、尖閣問題で日台の緊張高まる（11月）

《2005年から2008年にかけての日中関係の変化》

1. 05年4月の北京・上海の反日デモ以来、日本人の「中国理解」が急速に進展した。
中国に対するタブーがなくなり、マスコミで連日のように中国関係のニュースが報道されるようになり、内情を伝える記事が多くなり、単行本が数多く出版されるようになった。

2. 05年は戦後60年に当たり、日本国内で先の戦争を振り返る多くの試みがなされた。これも日本人の中国・戦争関連のタブーの払しょくに一役買っている。
3. 中国国内では、中国政府にとって都合の悪いニュースは相変わらず殆ど報道されない。報道規制が以前より厳しくなっている印象を受ける。オリンピック以後、厳しくなった。
4. 05年の抗日戦争勝利60周年の行事は、予想されたほど激しいものにはならなかった。日中戦争のテレビ・映画等の映像は、依然として中国国内の至る所で毎日流されている。
5. 中国での小泉首相の靖国参拝の報道は、05~06年とも自重したものにとどまった。中国でのインターネットへの書込みは、相変わらずかなり過激な反日が多い。
6. アフリカ・南米・東南アジア等に対する資源・エネルギー外交が顕著になっている。欧米の援助でも改善されなかったアフリカへの新しい援助の形を模索しているともとれる。
7. 中国の不透明な軍備拡張とそれに対する日本の対応問題がクローズアップされてきた。軍事的脅威が顕在化してきた？ ともとらえられている。
8. 安倍政権発足(06.9.25)訪中(10.8)以降、日中交流が正常化しつつある。政冷経熱から政経両熱になるか。06.10に日本政府高官を多数招いて盛大に開かれた「中国文化フェスティバル2006」の開幕式では、久しぶりに「日中友好」という言葉が聞かれた。
9. 中国国内の暴動が増加し、暴動の件数が06年より発表されなくなった。
10. 温家宝首相が来日(07.4)し、戦略的互惠関係が確認された。
11. 06年末から07年初にかけて中国食品を巡る安全問題がアメリカ、パナマ等で噴出した。段ボール肉饅、偽装食品等、中国食品の安全問題が噴出(07.5-7)し、不信感が残った。
12. 福田首相が訪中(07.12)し、特別待遇を受けて大歓迎された。
13. 中国産冷凍餃子による農薬中毒事件が表面化(08.2)し、広範な風評被害が発生した。解明は頓挫、その後、中国で回収餃子による中毒が発生し、工場での農薬混入を認めた。
14. チベット暴動(08.3-4)が発生し、これがオリンピック聖火リレーに影響し、チベットを支援する先進国・有名人と中国の対立が表面化した。一時、反仏運動に発展した。
15. 日中国交回復30周年を機に胡錦濤主席が来日(08.5)、パンダが送られた。
16. 四川大地震(08.5)で日本のレスキュー隊の活躍が好印象を与え、中国・四川の反日感情が和らぐ？ その後の取材規制で、復興の状況も不透明に
17. チベット問題、食の安全、大気汚染、高価なホテル宿泊費、燃料サーチャージの高騰などが影響し、オリンピックへの旅行者が低調(08.8)。
18. オリンピックが終わり、アメリカのサブプライムローン破たんを端を発した世界の経済混乱が波及、ドル安・ユーロ安が進行し、日中の経済が混乱。中国はインフレ懸念から、一転、デフレ傾向に？

《経済成長は著しかったが、陰りが・・・》

06年1月、サービス業のセンサスデータを加え、過去のGDPを上方修正した。
 11.3%(88)、4.1%(89)、3.8%(90)、9.2%(91)、14.2%(92)、14.0%(93)、13.1%(94)、10.9%(95)、
 10.0%(96)、9.3%(97)、7.8%(98)、7.6%(99)、8.4%(00)、8.3%(01)、9.1%(02)、10.0%(03)、
 10.1%(04)、10.4%(05)、10.7%(06)、11.4%(07)、9.0%(08)予想
 経済成長が、貧富の格差問題を抑え込んでいるが、経済成長が鈍化すると矛盾が表面化する

恐れがある。その境界はGDPが8%と言われている。

《様変わりしたチャイナリスク》

・《1995年》

《結果》

1. 鄧小平氏死去後の混乱……………波乱なく江沢民政権に引き継がれた。
2. 効率の悪い国営・国有企業……………かなり混乱はあったが、改革はほぼ終わった。
3. 人民元の暴落による市場の混乱……………暴落なく乗り越えた。
4. 沿海部と内陸部の経済格差……………相変わらず大きな経済格差がある。
5. 資源の乱用、壮大な無駄……………水・エネルギーの不足が深刻化、無駄が多い。

・《2005年》

《課題》

1. エネルギーと水の不足の一層の**深刻化**……………水・エネルギーの利用効率の向上
資源・エネルギーコストの大幅上昇
2. 都市と農村の更なる**経済格差の拡大**……………農村・農民の生活水準の向上
民工（出稼ぎ農民）の過酷な労働、生活の困窮
3. 巨大な失業者・潜在失業者・**農民と学生**……………産業化による雇用の確保
経済格差の拡大による民衆の不満の広がり、農民暴動の多発
4. 官僚の汚職、腐敗の深刻化……………摘発の強化
5. 反日教育・反日暴動の懸念・**靖国・領土・資源**……………日中間の広範な交流
歴史認識のすれ違い、考え方の乖離
6. オリンピック後のバブル崩壊の**大きな懸念**……………ソフトランディングの対策
銀行の巨額の不良債権、付替え・飛ばし……………融資の透明化・健全化
海外調達資金の再不良債権化の懸念
過剰投資による過剰な生産設備と過剰在庫……………過剰投資の抑制、自主的調整機能
7. **環境破壊**（過耕作・過放牧による土壌流亡・砂漠化、排水・廃棄物・白色汚染、工場事故
等による河川・地下水の汚染、大気・土壌汚染など）……………循環型への政策転換
8. 情報の隠蔽、農民・市民の**不満の蓄積**……………情報の透明化
9. 元切上げで高くなる人件費……………労働の質の向上
10. 人治による契約行為の突然の変更……………契約の有効性の確保
品質クレーム等での突然の日本製品の販売禁止……………明確な説明責任の要求

・《2009年》

- ・ 基本的にはほとんどのリスクは残り、大きくは変わっていないが……。
- ・ 07年のメラミンによるペットの大量死や段ボール肉饅頭の事件、08年の農薬入り冷凍餃子やメラミン入り牛乳の事件などにより、食品安全リスクが大きく取り上げられた。
- ・ 物価高や企業倒産による失業、土地問題などで、農民・民工の暴動が急増している。
土地・建物などの急激な値下がり、株の暴落などで、バブル崩壊の兆しが出ている。
- ・ その後、チベット・ウイグルへの弾圧が激しくなり、テロの脅威が高まっている。
情報統制が一層厳しくなり、好ましくない情報は流さないようになっている。
- ・ オリンピック会場のミサイルによる要塞化が象徴するように、国内・国外で軍事的なプレ

ゼンスが高まり、アジア近隣諸国への軍事力行使のリスクが高まっている。

《高い成長率を疑ういくつかの疑問》 2006年

1. 人口の7割を占める農民の収入の伸び悩み、高い経済成長率は本当の平均値なのか？
2. 中国の本当の経済成長率は4%台であるという説があるが？
80年代に建てたビルがもう壊されている。新しい会社がどんどん倒産している。
新陳代謝の速さが高いGDPの要因か、農民泣かせの不動産開発が経済発展の要因か。
3. 上海株の暴落に影響を受けない上海の経済成長とは何なのか？
4. 大学・専門学校の高学歴卒業生の多くが就職できない経済繁栄とは何なのか？
ホワイトカラー層を吸収できない産業構造なのか？
5. 経済発展で膨大に積み上がる「過剰設備」「不良在庫」「不良品在庫」の行方は？
6. 中国経済は「赤字・債務により出現しているバブル経済ではないのか」という疑問？
7. 赤字・債務の元凶は、銀行の不良債権？ 投資ファンドの赤字と倒産？
銀行の膨大な債務を政府が肩代わりし、改めて世界に株式公開される中国の有名銀行
中国人の投資慣習は改められず、債務が再び巨大化し国際化する恐怖、バブル崩壊！

《中国の環境問題》

1. 水資源の枯渇、河川の断流、地下水位の低下
食糧増産のための灌漑農業で水不足、砂漠化の加速
揚子江の水を3個所で北に送る「南水北調」の運河建設
2. 過耕作・過放牧による水土流失・砂漠化
食糧増産のための過耕作により山に木がなくなり、大量の土砂が流出し、砂漠化が進行
「退耕還林」「退耕還牧」運動の推進
3. 化学肥料・農薬の多用による環境・食品汚染
食糧増産に向けて大量の化学肥料、化学農薬を使用
生態農業、減農薬（無公害農業）、有機農業への転換
4. 鉱山開発・重化学工業による環境汚染
鉱山開発、重工業化などによる環境破壊と環境汚染
重金属・有毒物による土壌汚染、水質汚染
5. エネルギー資源の多消費による大気汚染
エネルギーを石炭に頼るための大気汚染
世界の大气汚染の酷い都市20の内、16が中国の都市である現実
6. 排水・廃棄物による環境汚染
経済活動に伴う産業廃棄物、工場廃水、家庭ごみの急増。廃棄物の分別・再利用がされず
埋め立てられるごみが新たな環境問題に。地下水の重金属汚染、プラごみの「白色汚染」
7. 畜産廃棄物による環境汚染
肉食や乳製品の普及で畜産廃棄物問題が深刻に
8. 資源循環型社会への対応の遅れ
「第11次5年計画」で循環型社会へ方向転換

中国の静脈産業はまだ育っておらず、排水・廃棄物処理には多くの課題がある。

《第11次5ヵ年計画(2006~2010年)の骨子》

1. 第11次5ヵ年計画(2006~2010年)の基本方針を、中国共産党第16期中央委員会第5回全体会議(5中全会)で採択(2005.10.11)。従来の「計画」から緩やかな「規画」という言葉になり、計画経済から市場経済に移行したことを印象付けた。
江沢民政権時代(1993-2003年)の「成長至上主義」から
胡錦涛政権(2003年~)の「持続可能な発展」へ路線転換を目指す。
2000年から10年の10年間で一人当たり国内総生産(GDP)を倍増させるとしている。
GDPに対するエネルギー消費が日本の8倍と効率が悪く、05年比20%減少を目指す。
2. 5中全会は、胡錦涛主席が党・国家・軍の全権を掌握してからの初の総会であり、「国民全てが改革の成果を享受できる調和社会の建設」を強調した。①貧富の格差是正、②資源の節約、③環境保護などを重点に置く「科学的発展観」を基礎にした内容になった。
リサイクル経済の発展、環境破壊への対応強化を明記し、「資源の節約」と「健康で文明的な消費モデル」の確立を目指すとしている。
3. 高度成長期には矛盾が最も先鋭化する時期であり、これを踏まえ、「あらゆる手段を講じて農民の収入を増やし、雇用の機会を拡大する。都市に流入する労働者の社会保障問題を解決し、地域間と個人間の所得格差を緩和する」とした。
4. 強制収用で農地を失った「失地農民」は4000万人以上
経済的社会的弱者の民工(出稼ぎ労働者)は1億5000万人以上
民衆の暴動は過去10年で7倍以上に激増し、05年は7万4000件に達している。
炭鉱事故が多発し、04年の死者は6027人。加えて、事故隠しがあると指摘されている。
役人の腐敗は深刻化し、共産党政権の基盤が揺らぎかねない状況である。

《中国の食形態の特徴と食の問題点》

1. 外食が多い。そのため、街に食堂、レストランが非常に多い。
共稼ぎがほとんどで、料理の手間を省くため。かつては家庭に冷蔵庫がなく、食材の保存が難しかったため。外食で親交を深める機会が多く、この習慣は現在も続いている。
2. 中国の加工食品は、基本的には家庭で作られるものである。
中国の食品加工業は、小麦粉、食用油、調味料などの調理素材を作るものであり、麺、饅頭、餃子、菓子、漬物などは基本的には家庭で作るものである。
料理は、食堂・レストラン、市場の中で作られることが多く、半製品を家に持ち帰ることも多い。最近では生ゴミを少なくするため、食堂・レストランで残り物の持帰りを奨励。
3. ファーストフードが子供達・ヤングに人気
ハンバーガーは日本とほぼ同じ価格であるが、店は大入り満員。子供の生活習慣病が増え、社会問題に。中国の肥満児童は10年前に比べ、女児が7.6%から10.0%に、男児が2.7%から5.2%になった。成人の肥満率は全国平均で7.1%、大都市では12.3%になった(05)。
4. 安全性の確保が最大の問題
消費者の心配は「安い野菜の農薬汚染」、有機燐剤による急性中毒
有名スーパーの緑色野菜、有機野菜は高価、庶民には高嶺の花、加工食品の添加物は不透

明、今後問題になる表示問題、緒についたばかりの衛生管理

06年11月に「農産物品質安全法」が施行され、消費者の不安が解消されるか？

5. 品質の向上・安定化が重要課題

農家が小規模で農産物の品質が一定しない。青果物は生産過剰、品質の差が大きい。

小麦粉等品質が安定しない。最近美味しいパンやケーキ、コーヒーなどが出回り始めた。

偽物が多いという問題。ブランド物は安ければ偽物という判断???

6. 食の機能性については大きな関心

多く出回る健康食品、機能性食品。医療費が高いためか。しかし過信は禁物、偽物も多い。

生活習慣病が増加。大人は接待による美食、子供は快餐によるカロリー過多が主な原因。

《大きく変わった中国人の食生活》

中国の一昔前（80年代）の食習慣と今の食習慣、日本の食との比較

- 中国等の東アジア、東南アジアの街には屋台が多く（多かった）外食が多い。その理由は、中国では共働きが多く外食で料理の手間が省けることと、かつては家庭に冷蔵庫がなく食材の保存が難しい等の理由があった。東南アジアではさらに食材の保存が難しい。
- 中国では、親交を深めるのに一緒に外食することが多く、食堂、レストラン、高級料理店が非常に多い。この習慣は現在でも盛んであり、巨大な外食産業を育てている。
- 中国では麺類、饅頭、包子、餃子、点心類、菓子類、漬物等の「加工食品は家庭で作る」のが基本であり、調理済み食品はまだ少ない。中国の食品加工業は一次加工が中心で、小麦粉、食用油、調味料等の調理素材を作るものであり、生鮮食品はそのまま調理に用いる。料理は食堂・レストラン等で、麺類や饅頭などの主食は家内工場で作られることが多い。
- 最近では、食堂・レストランなどでの食べ残し料理を家へ持ち帰ることが奨励されている。核家族化が進み、親と一人子の3人家族が多くなり、食べる量が少なくなった。家庭で麺類や餃子が作られなくなり、パンや冷凍餃子、乾麺等が多くなっている。
- 中国では、改革開放の始まった80年代から食習慣が大きく変わった。ここで言う「昔」とは80年代の中頃、「今」は2005~06年頃を想定し、沿海部の都市部におけるこの約20年間の食を巡る変貌振りを比較した。なお中国沿海部には約4億人が住んでいる。
- 昔は、冷たいものを一切飲まなかった中国人は、夏でも常温のビール、熱いお茶を飲み、「冬にアイスクリームを食べる」ことは想像もできなかった。どこでも熱いお茶のサービスがあり、お茶が出ない所では自分でお茶入りのガラス容器を持ち歩いた。今では、ペットボトル入りミネラルウォーターに変わり、夏は冷えた安い飲料が至る所で売られている。ビールも冷えたものが多くなり、若者は冬でもアイスクリームを食べるようになった。
- 昔は、あらゆる調理法がある中国料理でも、唯一「生もの」がなかった。刺身は勿論、サラダも冷奴も全くなかった。「中国人は刺身を食べない」と言われた。今では、サーモン刺身、ピータンを乗せた冷奴は小さな街の食堂でも出される定番料理である。フルーツサラダ、野菜サラダも種類が豊富になっている。しかし、生卵は今でも食べる習慣はない。
- 昔は、北京などの内陸の都市では、**海の魚**は古くて美味しくないので殆ど食べなかった。一番安い肉は硬い役牛の肉、次に量の多い豚肉、最も高級な肉は鶏肉であった。今では、豚肉・鶏肉は一般的な安い肉になり、牛肉は安い肉ではなくなった。レストランで高いものは活魚（調理して食べる淡水魚）、更に高いものは海産の活魚で、加熱調理したり刺身

にする。最も高いものはマグロのトロ、伊勢海老、貝類などの刺身になった。近年、健康に良いということで海鮮ブームが起こり、水族館のような巨大な魚介活作りレストランができ、多くの中国人で賑わっている。豪華定番メニューの中心は海産魚であり、巨大伊勢えびの活作り、車えびの踊り食い、ひらめの刺身等が中国料理のメインディッシュを飾っている。中国の大衆に刺身の美味しさを教えたのはノルウェーのサーモンであり、2001年頃から都市のレストランに出始め、2003～04年頃に大衆化し、一挙に刺身ブームがやってきた。2004年頃からは海産の魚種も増え、2005年からはそれまで高嶺の花であったマグロの刺身も一般化した。中国は昔から漁業大国であったが、殆どが淡水魚であり、低温流通がなかった中国では全て活魚流通に頼ってきた。現在は養殖技術も進み、チョウザメやヒラメ等の魚種まで大規模に養殖されている。沿岸部の4億人が海産魚の7割以上を食べており、内陸部はまだみだである。

- 昔は、中国のレストランに回転テーブルはなく、奥の料理も取れる長い箸を使っていた。中国の箸は先が平らで、日本式の先の尖った箸はなかった。冷えたものを食べないという習慣から「弁当」がなく、旅先でも必ず食堂で火の通った暖かい料理を食べた。列車の中にも火を使う厨房があり、列車で火の通った暖かい中国料理を食べるのは今も変わらない。今では、中国レストランの回転テーブルは一般化し、箸も短くなり、自分で取り分けられる日本式の尖った箸が多くなっている。中国に進出したローソン、セブンイレブン、ファミマ等のコンビニでは、日本式の弁当やおにぎりが売れ筋商品になっている。お昼には暖かい料理の弁当を仕事場まで配達してくれる食堂がたくさんできている。
- 昔は、殆ど夫婦共働きで、簡易な外食が多かった。男でも水餃子や麺が作れた。今大都市では、輸入小麦をブレンドした美味しいパンが売られているが(北京では04年頃より)、中国中北部では主食の大勢は饅頭と麺類であり、小麦消費の約70%を占めている。今では、スーパーで冷凍餃子や生麺がたくさん売られるようになり、乾麺も種類が豊富になり、05年頃から品質も格段に良くなり、餃子や麺類を作れない若い人が多くなった。

《中国の「食の安全」の問題》

1. 農薬・重金属などの残留による安全性の問題 《過去・現在》
 2. 安全性に問題のある食品添加物の過剰使用、微生物汚染の問題 《これから》
 3. 偽物を作るときに用いられる禁止薬物・毒物の使用 《これが最も大きな問題》
- 《偽物は、都市と農村、沿海と内陸の経済格差が縮小しない限り減らないであろう》

《農林水産物、安全農産物・食品の生産》 (2006年)

穀物 4.84億トン、油糧作物等 1.35億トン

野菜 5.65億トン、果実 0.88億トン、計 12.7億トン

畜産 1.35億トン、水産 0.51億トン、計 14.6億トン

	無公害農産物	緑色食品	(2005年)
認証された生産者数	9,043	3,044	
認証された製品の数	14,088	7,219	
栽培面積 (万 ha)	1,311(10%)		
生産量 (万ト)	8,297(6.5%)	4,988(3.9%)	

《中国の知的所有権》

1. 「人が喜ぶものを、真似て同じようなものを作れば、皆に喜んでもらえるはず・・・」という中国の古くからの考え方が偽物をたくさん生む土壌。中国国内には先進国のキャラクター・ブランド、DVD、電気製品等は勿論、中国の有名商品の偽物も溢れている。
2. ブッシュ大統領訪中の際(05.11)に、中国の偽物を取り締まるよう要求。
アメリカの税関に摘発された知的財産侵害品の数(2004年)は、中国がダントツの64.2% (2837件)、2位以下は、香港(6.4%)、アラブ首長国連邦(4.2%)、パキスタン(2.7%)、ロシア(2.4%)、インド(1.7%)、台湾(1.7%)など。
3. これまでは「法律無視の模倣」が多かったが、「上海ヤマハ」「クレヨン新ちゃん(蜡筆小新)」など、法律を駆使した「悪意の先駆商標」に変わりつつある。中国は日本と同じ先願主義であり、本物が偽物に駆逐される状況になっている。
4. 中国では「研究成果を発表すると真似される、特許を出せば真似される」ので、「報告は広く公開したくない、特許は出したくない」という研究者が多い。
5. 外国特許に基づいた研究でも、中国で実用化できる技術は特許になると言う考え。「中国では新しいことであり、中国の役に立てば特許になる」と言う考えで、日本では公知の技術も中国では特許になるようである。
6. 中国・韓国の大手企業は、特許大国日本の全文公表される特許申請書類から技術開発の内容を調査し、これを真似することで研究投資を節約している。先進国には特許を出すのが、中国・韓国には申請しない実態により、日本の知的財産がリアルタイムで流出している。
7. これからは日本国内と同時に中国・韓国に特許を申請することが重要である。

《中国ビジネス》

1. 中国への進出の形態
 - ① 合弁、独資、合作、技術提携、販売代理、委託加工、個人事業、貿易など
 - ② 製造業、商社、物流、サービス業、農林水産業など
2. 成功のための条件
 - ① 中国の歴史・文化、中国人の行動様式について十分な知識と理解をもつこと
 - ② 現地に馴染む事業を行い、現地に歓迎されること
 - ③ 中国政府の方針に沿った事業を行い、彼らの理解を得ること
 - ④ 現地において品質・性能・価格で競争力のある製品とサービスを提供すること
 - ⑤ 現地で研究開発を行い、現地のニーズに合った技術を開発すること
 - ⑥ 現地において独立採算を確立し、利益を中国国内で再投資すること
 - ⑦ 現地スタッフと一緒に努力し、現地で人材を育て、積極的に登用すること
3. 集団意識
 - ① 日本人は、無意識に集団意識が働く。外国でも自然と日本人の集団ができ、集団内のルールができる（必ずしも良い面だけではない）。
 - ② 中国人は、1人では優れた能力を発揮し、非常に頑張る。2人になるとお互いにけん制し合い、スムーズに行かなくなる。
 - ・中国ビジネスでは複数の幹部、集団指導は馴染まない。部署を細かく分け、序列を明確にし、責任者を一人にする。この方法は、技術等の秘密保持にも有効とされる。

- ・上手くいっている中国企業は、優れた罰金制度を持ち、効果的に使っている。指示に従わない人、能力の低い人はどんどん配置換えされ、簡単に首にされる（08年1月から労働契約法が施行され、状況は変わりつつある）。

4. 中国の労働環境

- ① 末端の労働者の賃金は驚くほど安い。労働集約的なものの生産費は非常に安い。頭脳労働者の賃金も世界水準から見ると非常に安いといえる。
- ② 少しでも高い賃金を求めて職場を簡単に異動する労働者。気軽に尋ね、教えあう給与の額。高い給与はステータス。自分をできるだけ高く売ろうと努力する。
- ③ 中国の経営者は、辞められても良いように細かく分けた単純労働をやらせている。辞められてもすぐ人を補充できるように、辞められてもノウハウが持ち出されないように。
- ④ 高給で優遇される管理者。ノウハウを知りうる立場にある管理者。
それでも機会があれば、より高いポストを求めて辞めていく可能性がある。
- ⑤ 日本人には難しい中国人従業員の労務管理。弱腰でやるとエスカレートする従業員の賃上げ要求・職場要求

5. 中国は官僚社会

- ① 中国は官僚社会であり、コネ社会でもある。一般に役所の手続きは非常に難しい。当事者や有力幹部に頼むとスムーズに事が進む。しかし、これに頼りすぎは要注意。
- ② 会社が儲かると次々に掛けられる税金のような経費

6. 中国の習慣（自己中心的）

- ① 他の人の意見をあまり聞かない。自己判断だけで「没問題(問題ない)」「没方法(仕方がない)」と言うことが多い。
- ② 自分のやり方を押し通そうとする。上手く行かない時の諦めも早く、問題の解決に向けて粘り強く努力することが少ない。
- ③ 自分のメンツを重視する。決定権のない人でも断定的に返事をする人が多い。

7. 競争社会の例え話

- ① イソップの「蟻とキリギリス」は、中国では原作の通り働かないキリギリスは真冬の野原で飢えて死ぬ。
- ② アメリカでは「冬になり、蟻は飢えたキリギリスを暖かい部屋に迎え入れ熱いスープを飲ませてあげる」となる。
- ③ 日本では「キリギリスは改心し、翌年春から蟻と一緒に畑を耕し出す」と変わる。「自分の利益だけを考えて、容赦なく相手をうち倒して自分だけが生き残る」(中国的) 商法と、「相手の利益、相手の満足を最優先に考えて、そこから自分も利益を得る」(日本的) 共存共栄商法との違いがある。

8. 中国ビジネス9つのポイント

- ① **言葉**：中国語に堪能な日本人が非常に少なく、通訳は中国人に頼っている。
話の内容が日本側に正確に伝わっているかを確認する必要がある。
- ② **物流**：スムーズにいかない国内輸送。省境・県境・村境等で次々に徴収される通行料
- ③ **電力**：すぐに引けない電気・すぐに増やせない電力使用量。近い将来に水と電力の供給不足が心配される。自家発電装置の設置が必要になる新規の製造工場
- ④ **人材**：専門の人材がまだ少ない。即戦力で充分トレーニングされていない場合が多い。
- ⑤ **現地調達資材**：部品の不良品率が非常に高い。品質を毎回充分確認する必要がある。
- ⑥ **国内販売**：各方面での購買力が高まっている。中国国内での販売をターゲットにした展開にも将来性が見えてきた。

- ⑦ 技術ノウハウの漏洩：ノウハウはすぐ漏れて、すぐ真似される。社員や役員が辞めて独立し、同じ事業を始めるので、技術ノウハウの効果的な漏洩対策が必要である。技術の心臓部は日本で作る体制をとる企業・業界が増えている。
- ⑧ 政策の変更：ルールを突然変更され、さかのぼって適応されることがある。
- ⑨ 人治と法治の混在：付合いに金がかかる。腐敗を生みやすい。

《中国に特有の問題 私達はこれを踏まえて行動しましょう》

1. 商売のコツは「先ず親しい友達を作る」こと・・・・・・・・・・(個別対応)
2. 予定通りには動かない計画・・・・・・・・・・(個別対応)
3. 事前の準備・段取りが不十分な突貫型、国際会議の運営も・・(個別対応)
4. 必ずしも守られない契約、人が変わると契約も変わる・・・(人治)
5. よく起こる指導者の突然の方針変更、朝令暮改・・・・・・・・(人治)
6. 多くを期待できない業務上の横の連携・・・・・・・・・・(個別分散)
7. 容易に手に入らない的確な情報、情報はお金・・・・・・・・(個別分散、実利)
8. 全て書類の役人優位の社会、サービス精神が少ない・・・・(役人社会)
9. 短期勝負の駆引き商売、少ない長期の誠実な商売・・・・・・・・(実利)
10. 厳しい競争、何でもありの資本主義的社会・・・・・・・・(個別分散、実利)

《日本社会とは全く異なる中国社会、日本人と大きく違う中国人の考え方》

1. 異なる歴史的・風土的な背景、日本と中国
 - 中国 「騎馬民族・大陸民族」 「乱世・貧困」 「社会主義・人治主義」
 - 日本 「農耕民族・島国民族」 「安定・繁栄」 「資本主義・法治主義」
 - ・農耕民族・海洋民族で山の多い島国と、騎馬民族で森林の少ない平原の大陸
 - ・戦乱では山や島に隠れた日本と、戦乱があると勝負するか、南部や国外に逃げた中国
 - ・世界から見ると「特殊な日本社会」、良し悪しではなく社会システムの違い
「日本の常識は、世界の非常識」(竹村健一著書)であることが多い。
2. 集団責任・自己犠牲のA型(40%)の日本社会と、自己責任・自己主張のB型(40%)の中国社会
 - ・集団を好むこつこつ型のA型主導の日本と、独立心旺盛で大胆なB型主導の中国、周囲の環境に影響されやすいO型の性格は、日・中で大きく異なる。
 - ・固まって味が出る「おにぎり」のような日本人、ぱらぱらで一粒一粒に味がある「チャーハン」のような中国人
 - ・周囲の迷惑になるからとバスや電車の中で携帯電話を切らせる日本人と、携帯かけ放題のにぎやかなバス、離陸直前・着陸直後にも携帯をかける中国人(06年頃から離陸時の飛行機では少なくなった、危険行為の意識が浸透してきたか)
 - ・「犯罪に使われるから」とプリペイド携帯電話を使わせない日本と、犯罪にどんどん使われ、被害を受けてもプリペイド携帯を使う「自己責任」の中国
3. 周囲との関係で考える日本人・日本と、自分が中心にいると考える中国人と中国
 - ・周囲との関係で動く受動的日本社会と、自分が中心の能動的中国社会(中華思想)

- ・せっかくある「権利」も主張しない日本人と、ないはずの「権利」も主張する中国人
- 4. 以心伝心の日本社会と 会話主導の中国社会
 - ・「言わなくても判るよね」の日本社会と、「言わなきゃ分かんないよね」の中国社会
 - ・裸の付き合いをしたがる日本人と、裸になりたがらない中国人
- 5. 法治国家の日本と 人治国家の中国
 - ・約束・契約を必ず守ろうとする日本人と、事情が変われば約束・契約を守らない中国人
 - ・停まる場所が決まっており、オーバーランが咎められる日本の電車(福知山線事故)と、停まる場所が一定せず、客が入口に合わせて走る中国のバス、列車・地下鉄(オリンピックの前から、バス・地下鉄の整列乗車の訓練を始めたが・・・)
 - ・集団のルールが重要な仕事中心の日本社会と、友人・親戚のつながりが重要な交友社会の中国社会
- 6. プロセスを重んじる職人的考え方の日本と、結果を重視する商人的考え方の中国
 - ・付き合い下手で職人氣質の日本人と、付き合い上手の商売人氣質の中国人
 - ・小さな事にこだわる日本人と、時に大きすぎる目標を持つ中国人
 - ・「情報は無料」で、すぐに知れ渡る日本社会と(智財権で多少変わりつつあるか?)「情報は商品」で情報が局在化し、技術普及の難しい中国社会
- 7. 全てに平等な社会主義的な日本と、貧富の差が大きく厳しい競争の資本主義的な中国
 - ・極端な貧困や大金持ちの少ない日本と、極端な貧困と大金持ちが共存する中国
 - ・4分の1の人が資産の4分の3を持っているのが「格差」という日本と5%の人が80%の資産をもっている巨大な「格差」の中国
 - ・大した病気でなくても(お金がかからないので)病院に行きたがる日本の老人と、病気がこじれるまで(お金がかかるので)病院に行きたがらない中国の老人
 - ・税金で補助される富裕日本農民と、(だんだんそうも言っていられなくなっている)幾ら貧しくても税金・労働奉仕が課せられる中国農民(06年1月から国の農業税廃止)
- 8. 性善説で運営される日本社会と、性悪説で運営される中国社会
 - ・デポジットをとられない「後払い社会」の日本と、あらゆるところでデポジット(保証金)をとられる「前払い社会」の中国
 - ・罰金とは「やってはいけないこと」と考えている日本人と、罰金とは「払えばやって良いこと」と考える中国人
 - ・罰則規定のない規則の多い日本と、罰則がないと守られないと罰則を強化する中国
 - ・QC運動などで社員が一体になって運営改善が図られる日本の企業と、罰金で運営される中国企業(罰金制度が良くできていると自慢する中国人社長が多い)
- 9. どこを切っても似ている金太郎飴社会の日本と、極めて多様な社会が共存する中国
 - ・適正価格の幅が狭い「値ごろ感」のある日本商品と、値幅が非常に大きく「値ごろ感」のない吹っかけ価格の中国商品(時には10~100倍)
- 10. 過去を水に流す日本人と、過去を石に刻み記憶に残す中国人
 - ・悪いことをしても死ぬと免罪になる日本と、悪いことをしたら死んでも末代まで責められる中国
 - ・戦争の過去を忘れる教育をしてきた日本と、戦争の過去を忘れない教育をしている中国
 - ・「60年も経ったのだから」と言って、戦争責任を水に流そうとする日本と、「60年経っても謝らない」と言って、戦争責任を追求する中国

《中国人度・日本人度テスト》

みなさんの中国人度、日本人度を試してみてください。

あなたは、中国に（住んで）いるとして、主にどちらの行動をとると考えられますか。

番号の①か②か、当てはまる方に○を付けてください。

1. ①赤信号でも渡れる時にはどンドン渡るようにしている。
②赤信号が変わるまで待って渡るようにしている。
2. ①値段を聞いて、高くなくても値引き交渉をしてしまう。
②市場で買い物をするときにも、ほとんど言い値で買ってしまう。
3. ①中国は超大国であり、世界の中心だと思っている。
②日本はまだまだ先進国であり、中国には負けてないと思っている。
4. ①出来そうでなくても、とりあえず「没問題(問題ない)」と言ってしまう。
②出来そうもないことは「出来ない」と断り、安請け合いしない。
5. ①家の中は土足の方が便利なので、そのまま入っている。
②家の中に土足で入るのは汚いので、必ず履き替えている。
6. ①賑やかなもの、大きな音が大好きだ。
②静かな温泉や落ち着けるといところに行きたいと思っている。
7. ①料理はたくさん残るように、多めに注文する。
②料理はなるべく残らないように注文し、出た物は残らず食べる。
8. ①造花は、季節や場所を選ばず、奇麗なので大好きだ。
②生花が好きで、造花はあまり使いたくない。
9. ①「割り勘」なんてみっともない方法はしない。
②一緒に飲み食いしたときはできるだけ「割り勘」にする。
10. ①中国でいつも食べ慣れた中華料理を食べたい。
②せっかく中国にいるのだから、各地の珍しい料理を食べたい。
11. ①「对不起(ご免なさい)」という言葉は自分が不利になるので使わない。
②何かあった時、すぐ「对不起(ご免なさい)」と言ってしまう。
12. ①今うまくいなくても、全て何とかかなと思う。
②何かうまくいかないと、すぐ暗くなってしまう。
13. ①偽ブランドでも、見て良く使って良いものは良いものだ。
②全て本物でなければ買うつもりはない。
14. ①法律や規則で縛られても必ず良い対策(抜け道)があるものだと考えている。
②法律や規則で決められたものは可能な限り守るようにしている。
15. ①買ったものが壊れても仕方がないと思って諦める。
②買った物が壊れたら、買ったところに文句を言いに行く。

16. ①お金が貯まったら何かに投資したいと考えている。
②将来のことを考えて無駄使いせず、できるだけ貯金をする。
17. ①食材は歯触り(こりこり、ぷりぷり等)が第1だと思っている。
②食材は鮮度が一番で、鮮度の落ちたものは買わない。
18. ①タクシーに1人で乗るときは、上席である助手席に必ず乗る。
②助手席は危ないので、1人の時は絶対助手席には乗らないようにしている。
19. ①何かあった時、先ず大きな声で自分の主張を明確に示すようにしている。
②「はい」「いいえ」が判らない曖昧な返事をしてしまうことが多い。
20. ①物を買うときは、先ず支払いが先と心得ている。
②物を買うときは後払いが常識であり、前払いは馴染めない。
21. ①約束を当日にドタキャンされても別に驚かない。
②理由なくドタキャンされたら、次からはその人とは約束をしたくない。
22. ①罰金とは「支払えばできるもの」と思っている。
②罰金があることは「やってはいけないこと」と理解している。
23. ①自分のこと、身内のことを先ず第一に考えるようにしている。
②自分のことより、周りの人への迷惑や恩恵を先ず考える。
24. ①お祝い事はできれば派手にしたい。
②何事も世間並み、横並びが大切で、目立つことはあまりしない。
25. ①ルールを作ってもほとんど守られないので、自主性に任せる。
②人が集まれば何かルールが必要なので、皆が守れるルールを作る。

①に付けた○の数を4倍すると中国人度%、②に付けた○の数を4倍すると日本人度%です。

このアンケートは、典型的な中国人、日本人というものを想像して作ったものであり、日中双方でこれに当てはまらない人も当然見られる。日中のたくさんの知人・友人で実施してみて、ある程度納得できるものと考えている。

日本の中でも、東京と大阪と名古屋で「赤信号を渡るかどうか」「目立つことをするか」「横並びを重んじるか」などでも行動様式がかなり違う。一般に関西人は「信号守って何ぼの得?」と守らない人も多く、概ね日本人度が70~80%程度の人が多い。また、海外経験の多い日本人も日本人度が低くなる傾向がある。

中国語で作った「中国人度テスト」の用紙で中国人にテストすると、概ね中国人度が90%以上になるが、中国人でも、日本語を習い、日本に懂れている人や、日本に長期滞在した経験のある人は、「静かな温泉地が好き」「決められたことは守る」「赤信号は守る」などと日本人の様な反応を見せる人も多く、日本人度の高い中国人もいる。

ちなみに、中国・北京で3年間暮らした私の中国人度は68%(日本人度32%)ほどになり、3年間一緒に暮らした家内の中国人度は、12%(日本人度88%)であった。日本に長期滞在している中国人の中にも、中国人度が大きく変わらず高いままの人がいる。生活習慣の変わりやすい人と、変わりにくい人がいるようだが、何が違うのだろうか。